

会 議 議 事 録 (抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第1回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和6年7月22日(月) 18時00分～20時00分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下1階 テラホール
参加者	外 部 委 員：11名(委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者：5名
配布資料	① 会次第 ② 委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 2023(令和5)年度の学校関係者評価結果 ⑤ 2024(令和6)年度 第1回学校関係者評価委員会 PP 資料 ⑥ 春季全学科 学修成果発表展示に関する感想・評価
会議録	1. 開会の辞・事務局紹介 開会宣言 【井坂副校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 2. 学園側関係者挨拶 校長挨拶 【白井校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 組織変更に伴う人事紹介・挨拶 【甲田副校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 【多賀事務長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 【影山本部長(成長戦略推進本部)】 【村山部長(成長戦略推進本部 HRD事業部)】 3. 委員紹介 各委員の紹介 【井坂副校長】 4. 議長の選出および議長挨拶 会則に則り、渡邊委員長(NEXT株式会社)を議長に選出 【井坂副校長】 議長挨拶 【渡邊委員長】 5. 開催要件の確認 【井坂副校長】 開催要件の確認(総委員の過半数の出席(委員16名、出席11名)) 6. 議事 (1)第一号議案:2023(令和5)年度 第2回会議議事録の確認 【渡邊委員長】 事務局へ前回議事録の確認指示 【井坂副校長】 前回議事録説明 【渡邊委員長】 前回議事録内容の齟齬等を確認 【全委員】 全員一致で承認 (2)第二号議案:2023(令和5)年度事業報告 【渡邊委員長】 事務局へ2023年度の事業報告を指示 【井坂副校長】 報告者白井校長を指名 【白井校長】 2023(令和5)年度事業報告

《はじめに～専門学校を取り巻く状況・2020年の教育改革とその影響～》

高校教育の改革
大学入学者選抜の改革
大学教育の改革
専門職大学制度
高等教育の無償化
リカレント教育の充実
専修学校に関する学校教育法の一部を改正する法律案(令和8年4月施行)

- ① 専門課程の入学資格を大学と同様の規定とする
- ② 呼称を「生徒」から「学生」へ統一
- ③ 最低必要な学習時間の基準を「時間数」から「単位数」へ変更
- ④ 一定の要件を満たす専門課程をおく専修学校には、「専攻科」を置くことができる
- ⑤ 自己点検評価を義務付けるとともに、外部の評価を受ける努力義務(第三者評価委員会)

基本方針.1／共感される学校づくり

1-1 学生募集に関する報告

入学者数310名の達成目標に対し、結果 314名

内訳:国内生は横ばい、留学生が増加

要因:コロナ後、国内に留学生が激増、学施策の見直しをしたため入学者数に繋がった

⇒入学した留学生は優秀、ことわざが通じるくらい日本語能力ある

グローバル人材を育成できる学校として、さらに「留学生が入りたい学校」を目指していきたい

1-2 高専連携に関する報告

高専連携(教育連携)の強化

- ・都立練馬工科高校 ⇒ 体験Ⅰ授業・インターンシップ(3日間)・文科事業
- ・都立蔵前工科高校 ⇒ 情報授業(1年生全クラス)・文科事業
- ・私立堀越高等学校 ⇒ 探求授業・文科事業
- ・都立六郷工科高校 ⇒ 文科事業
- ・都立多摩工業高校 ⇒ 文科事業
- ・埼玉県立新座総合科学高校 ⇒ 情報授業・インターンシップ(6日間)
10/17 教育連携協定締結
- ・理科担当教員向けセミナーの実施 ⇒ 都立農芸高校等の生物授業へ
- ・都立中野工科高校 ⇒ 高校教員研修 ⇒ 8/22・23 バイオ環境系で開催
- ・県立神奈川工業高等学校 ⇒ 日本初、『次世代建築リーダー育成コンソーシアム』を設立
7/13、10/31、12/13、3/14 連携授業実施
- 『次世代建築リーダー育成コンソーシアム』
神奈川工業高等学校、東京テクニカルカレッジ建築監督科、清水建設(株)
産学連携による7年間(高校3年・専門4年)の人材育成プログラムを提供
- ・第1回連携授業 清水建設(株)本社にて神奈川県工業高校建設科1年80名を対象(7/13)
- ・第2回連携授業 神奈川工業高校(10/31)
- ・第3回連携授業 銀座エリア・豊洲エリアの建築見学 清水建設(株)案内(12/13)
- ・第4回連携授業 トークショー「施工管理者の先輩の経験を聞き出そう」 TTC(3/14)

高校教員向けセミナーの実施

8/22 バイオテクノロジー科・8/23 環境テクノロジー科

新たなプログラムも試作中

基本方針.2／自己改善できる学校づくり

2-1 教務指標に関する報告

退学率5%以内の抑制 (2023年(令和5)年度結果)

- ・退学者数 :7.3%(5/1 在籍479名に対し35名)
- ・年間出席率:94.0%
- ・課題発生率:10.2%
- ・課題残率 :2.9%

なかなか苦戦している状況にある

2-2 授業の問題発見・改善手法に関する報告

2023年実施し、2024年も継続中

フォローアップ体制の再構築

⇒スタジオアワー等補習時間の確保

⇒上位槽への対応(paiza ラーニング等の教材導入)

・情報処理・IoT+AI 科のプログラミング自習に paiza ラーニング導入

・夏期休暇中 全科学生対象 数学の補習(全12コマ+効果測定)
 チェックバック手法(資格取得含む)の開発
 ⇒履修判定試験結果分析からカリキュラムの問題点発見
 問題点を解決するための改正提案→コマシラバス改善
 (2・4期、1教員1教科のチェックバック実施)
 ⇒S-P 表分析の実施(実証実験含む)
 資格対策の結果分析に S-P 表を活用・改善を試みる
 ・施工管理技術者試験、インテリアコーディネーター試験の対策に導入

2-3 学修成果発表に関する報告

秋季建築系学科展示(10/20・22 テラホール)

⇒ 企業・保護者等外部来場者数 67 名

秋季ゲームプログラミング科ゲーム大会(10/22)

⇒ 卒業生70名来校

春季全科学修成果発表展示(3/2～3/31)

⇒評価コメントの抜粋

【発表会、全体をととして】

- ① 各科の発表内容も多彩で、かつ学生のキャラクターも様々であり学校の特徴を感じる発表会だった。
- ② 各科の発表時間が14～16 時頃に多く、全学科を周ろうとすると時間的に厳しいため、時間帯をずらすなどあれば良い。
- ③ 学生も他学科の発表を聞く時間を設けると良いのでは。
- ④ 外部聴講者の人数が少ないので、学園祭も増えて発表する学生にとっても刺激になるのではないかと感じた。それぞれ、しっかりとした信念と専門知識を身に付けアイデアも素晴らしいと思いました。

【展示、全体をととして】

- ① 全体的に、ただやった事を並べているだけという感じで、かつ情報量が多すぎるので積極的に見ようと思えないものが多かった。
- ② 全学科の作品・研究がまとめられており、日々の学習成果を確認することが出来た。
- ③ 各科とも、学年が上がるにつれて作品や研究のレベルが上がっていることが理解できた。
- ④ 学校の特徴でもあるRJPの展示も各科の強みを生かした内容であると感じた。
- ⑤ 各学生が取り組んだ成果がわかりやすく展示されていました。可能ならば 2 日の当日だけでも学生本人(代表)が説明されるとなよかったと思います。

2-4 リアルジョブプロジェクトに関する報告

各科の取り組み(継続課題とともに、新規課題に取り組む)

・建築監督科

⇒RCラーメン構造の鉄筋模型作成、OC用教材作成

・建築家

⇒校内共用部への提案、知識・技術の研究、調査と提案

・インテリア科

⇒男子学生寮の1室(モデルルーム)をリノベーション

・情報処理科

⇒ラズベリーパイによりIoTコンテンツの開発

・IoT+AI科

⇒1 年生:ヒーローズリーグコンテンツの応募、2 年生:もくほりねずみ出展

・DS+AI科

⇒データサイエンス学習者の意識調査、生成系AIツールの性能検証

・ゲームPG科

⇒Windows ゲーム作成、スマートフォンゲーム開発、ネットワークゲーム開発

・Web 動画クリエイター科

⇒中野うさぎ飯カレンダー壁紙作成、
 殖産ベスト社販促物制作、吉祥寺ハロウィンポスター柵瀬

・バイオテクノロジー科

⇒食品係(醗酵食品開発、完全栄養食品ミドリムシ)、
 理科実験班(SNS発信・オープンキャンパス)、ものづくり(アロマキャンドル)、
 植物関係(花壇、グリーンカーテン、アクアポニックス)

・環境テクノロジー科

⇒善福寺川の水質保全、竹林問題、シーケンサ体験授業提案、京都の毒性植物調査、
 SDGsの取組事例、ミニビオトープ計画と施工

学科を超えての連携 さらに増やしていきたい

・バイオ×IoT

⇒一瞬でコロニーを検出できる画像処理モデル

2-5 その他の学習成果に関する報告

受賞歴が多かった一年だった

- ・IoT+AI科 1 年生
⇒ヒーローズリーグ 2023 において、2 作品が「優秀賞」を受賞
- ・情報処理科 2 年生
⇒キャリアマップ e ポートフォリオコンテスト情報部門「最優秀賞」受賞
- ・Web 動画クリエイター科
⇒Web デザイナー検定において首席合格にて「文部科学大臣賞」受賞
- ・データサイエンス+AI 科
⇒生成 AI による持続可能な社会に貢献するアプリ開発国際コンペで、世界 150 チーム中、ファイナリスト9チームに選出される
- ・建築科夜間 1 年生
⇒インテリア産業協会主催コンペで、「インテリア産業協会会長賞」受賞
- ・バイオテクノロジー科 2 年生
⇒「第 32 回中級バイオ技術者試験」全員合格
- ・インテリア科 1 年生
⇒文部科学省後援「色彩検定」全員合格
色彩検定協会より「色彩検定協会奨励賞(団体賞)」受賞
- ・建築監督科2年生
⇒ビジネス検定 2 級にて、首席合格「優秀賞」受賞

2-5 学生支援等に関する報告

高等教育の無償化

- ・2023年度:37名(7.7%)受給 2022年度:53名(9.1%)

リカレント教育の充実

- ・教育訓練給付金(専門実践訓練)の継続
- ・専門人材育成訓練制度の受け入れ継続
⇒新規でインテリア科の採用されず

海外研修の再開

- ・建築インテリア海外研修 バルセロナ4泊7日を実施
- ・全学科アメリカ研修(SISP)の復活

2-6 就職活動に関する報告

早期内定(校目標8月末内定80%)現実するとともに 優良企業へ内定を確保

⇒8 月末91%

ディプロマポリシー達成のエビデンスとしての内定を獲得

新たな就職分野の開拓

⇒ネットワンシステムズ(株)、インフォコム(株)、(株)テクサー

基本方針.3/DX をワクワクさせる学校づくり

3 DX をワクワクさせる学校づくりに関する報告

学びの満喫 “拡充プロジェクト”

⇒IT 系新科2科設立、現在2年次カリキュラムおよび就職先企業開拓を開始

学びの満喫 “未来化プロジェクト”

⇒既存学科のリノベーション

学びの満喫 “深堀プロジェクト”

⇒企業連携等探求型教育事業の開発

【2023 年度企業ヒアリング実施一覧】

- ・(株)AGC 人事総務統括部 部長訪問(6/7)
- ・富士フイルムワコケミカル(株) コーポレート部長訪問(6/29)
- ・(株)熊谷組 管理本部人事総務部 副部長訪問(8/1)
- ・(株)サイバーエージェント 技術人事本部孫津採用担当来校(8/8)
- ・(株)アイダ設計 人事部 部長訪問(8/8)
- ・水 ing(株) ガバナンス推進本部総人事統括部 人事部長来校(9/8)
- ・(株)安藤・間 経営戦略本部キャリア開発部 一柳採用グループ長訪問(9/13)
- ・長谷工コーポレーション(株) 人材開発部長来校(9/13)
- ・長谷工リフォーム(株) 人事採用責任者 執行役員来校(9/13)
- ・清水建設(株) 人事部 主席マネージャー来校(9/14)
- ・西松建設(株) 人事部担当訪問(9/22)
- ・富士通(株) Employee Success 本部 シニアマネージャーオンライン(9/25)
- ・(株)カネカ 人事部採用育成グループ 主任訪問(9/28)
- ・(株)ニコン・トリンプル COO 来校(10/27)

⇒分野横断型技術者教育事業の開発
 複合人材の輩出事例
 メンテ科→シュテルン品川→情報処理科→自動車パーツのECサイト(株)アップガレージに就職
 学びの満喫 “発信プロジェクト”
 ⇒専門人材未来会議の継続開催
 ⇒企業連携学科横断による研究機関「TTCラボ」の開設
 ⇒企業連携学科横断による学修環境・ラーニングコモンズ「TTCプラザ」の開設

(3)第三号議案:2024(令和6)年度事業計画

【白井校長】

基本方針.1／共感される学校づくり

「ポートフォリオの多様化を推進し、各科ごとに定員を充足させる」

- 1) 募集施策の改善
 - ⇒見学出願率の向上(OC 満足度アップ)、発信強化(SNS 活用促進)
- 2) 留学生募集施策の推進(海外事業部・留学生センターとの連携)
 - ⇒募集スキーム見直し(早期化への対応)、内部進学施策の強化、日本語教育強化
 - ⇒留学生に対する就職先および経済的支援の拡充(留学生サポーターズクラブを含む)
- 3) 高専連携事業の推進(高専連携・入学相談部との連携)
 - ⇒文科事業の継続(練馬工科高・六郷工科高・多摩工科高・堀越高)
 - ⇒建築系事業の推進(神奈川工業高+TTC+清水建設⇒一都三県の工業高へ)
 - ⇒情報系事業の推進(蔵前工科高・新座総合技術高)
 - ⇒バイオ系事業の推進(農芸高・中野工科高・多摩工科高・川越工科高)
 - ⇒通信制高校との連携・高校教員研修の受入れ推進(企画及び実施)
- 4) 企業連携事業の推進によるリカレント層の取り込み(HRD 事業部との連動)
 - ⇒大和ハウスモデルの拡大(新リーフレット完成)、企業奨学金制度の整備・拡大、新学科職業実践申請

基本方針.2／自己改善できる学校づくり

「学生の満足度を高め、退学率を5%以内に収める」

- 1) 学生がワクワクする授業・学校生活を提供する
 - ⇒わかりやすい授業・達成感のある実習・成長実感できる RJP の提供
 - ⇒学内に学生各々の居場所をつくる、校内学習環境の整備促進
- 2) わからないを残さない、を支援する(フォローアップ体制の強化)
 - ⇒自習機会の提供(留学生へ教材事前配布、paiza、コンペ等の提供)
 - ⇒スタジオアワー等自習・補講時間の確保
 - ⇒補講の進捗状況の見える化と共有を
- 3) 授業の問題点を発見し、より良い授業を提供する(チェックバック手法の開発)
 - ⇒履修判定試験結果からカリキュラムの改善点を発見
 - ⇒S-P 表分析の活用(履修判定・資格対策の結果分析に活用する)
 - ⇒2期・4期、1教員1教科のチェックバックを実施する
 - ⇒問題点を解決するための改善提案⇒コマシラバス改善へ
 - ⇒問題発見のための「アセスメントシート」のプロタイプを作成する

基本方針.3／DX 社会をワクワクさせる学校づくり

「新しい技術の時代を楽しむ、ワクワクする学びを提供する」

- 1) 新たな学びを、学校の特徴として「将来構想」に盛り込む
- 2) 中期計画テーマ2の新しい学びの提案を具現化する
 - ⇒分野横断人材の育成、TTC の「ダブルメジャー」はじまる
 - ⇒区分制(専攻科設立⇒高度専門士付与)の導入検討
 - ⇒分野深堀人材の育成、TTC の「スタートアップ」はじまる
 - ⇒インキュベーションセンター設立の検討
- 3) 「DX」を共通テーマに、学科連携を強化する
 - ⇒それぞれの専門分野の発展の方向性を探り、共有する
 - ⇒関心が高いテーマに関し、専門人材未来会議を開催(学生も参加可)
 - ⇒AI の活用等をととして学科間の連携をはかる

基本方針.3／将来構想の立案

「中長期の視点から、校の経営機能の最適化に向けた施策を立案する」

少子化及び大学全入を背景に定員充足率が50%に満たない学科が増加する等、経営状況が悪化している。そうした状況を改善するため、中長期的な視点から、下記ポイントを中心にゼロベースで校の経営機

能の最適化に向けた施策を立案する。

「新しい技術の時代を楽しむ、ワクワクする学びを提供する」

- 1) 収支状況の再確認と採算性に向けた改善策の洗い出し
- 2) 定員充足率50%以下の学科における存廃および改善策に関する検討
- 3) 採算性向上に向けた「学科構成」に関する検討
- 4) 専修学校に関する法改正への対応(法改正を学内改善の好機とする)
 - ・単位制の導入の検討(必要性和負担の両面から検討を行う)
 - ・区分制導入の検討
 - ・補助金・助成金等の再検討
- 5) DX 社会をワクワクさせる学校づくりにおける、新しい学びに関する検討(前項4・区分制導入の検討とも連動)

(3)第四号議案:審議(取り組みに関する評価および意見交換)

【渡邊委員長(NEXT株式会社)】

事務局へ審議の趣旨説明の指示

【井坂副校長】

概要を説明

以下、各委員の意見及び学校側の答弁の概要

【安藤委員(株式会社 miwa)】

「私自身がついていけないレベルまで来ているなと思いました。RJPとワクワクさせる学校づくりの関係性が何なのかを後ほど教えてください。私は、企業側でもあるので、その立場からの意見を言わせていただきますが、我々のような設計事務所は作図をする人間の数が必要です。ただ、日本には人がいない、留学生に頼らざるをえない状況です。これからは、留学生が日本企業の海外拠点事務所に就職することも視野に入れてもらいたい。可能性をうまく広げられるといいのかなと思いました。」

また、近年、資格取得してくれる人が減ってきています、時代が変わったのでしょうか。お金もかかるし、仕事も忙しいので、会社側もなかなか「取りなさい」と言いづらい状況です。私が学生の頃、資格取得は一番、二番くらいに出ていたような話だった記憶があるのですが、資格に対して取り組んでもらえたら嬉しいです。」

【白井校長】

「ありがとうございます。RJPとワクワクさせる学校づくりは、本当はリンクさせたいです。学科連携が足りないことは、佐々先生や島田先生にもよく言われていますので、制度として学びをつくっていきたいと考えています。海外拠点の人材については、色々な企業様からお話をいただいているので、企業様がどういう人材が欲しいのかをヒアリングから進めていきたいです。」

資格取得については、学内でできることはやっているつもりですが、鈍っているのが正直なところ。説明した、大和ハウスさんとの連携も、二級建築士を取ることが目標です。工業高校の建築科では足りない指定科目をしっかりと学んで資格を取れる状態にしてほしいというのが大和ハウスさんからのオーダーです。中途半端な回答になってしまいますが、資格を取りたがらない現状を知れてよかったです。」

【楡井委員(建築監督科保護者)】

「息子は2年生になりました。先ほど出た資格の話になりますが、二級施工管理技士の合格通知が先日家に届きました。前はあまり自分から動くような子ではなかったのですが、1年間先生方のサポートをいただけたおかげだなど先生方には感謝しております。これからもよろしくお願いいたします。」

【白井校長】

「二級施工管理技士ですね、合格おめでとうございます。今年から、二級施工管理技士を2年次に、一級を4年次で取ろうとしています。楡井さんは神奈川工業高校が来た時もパネラーとして、彼に10人くらい高校生がついて学びを伝えてくれました。活発に動いてくれて学校としても非常に助かっています。今後ともよろしくお願いいたします。」

【甲田副校長】

「1年生が終わって3か月しか経っていない且つ、施工管理の勉強が3分の2くらいしか終わっていないこの中で、二級施工管理技士合格はとても素晴らしい成果です。楡井さんだけではなく、2年生の半分くらいは合格しているので、頑張った成果かなと思っています。建築監督科をブラッシュアップしてさらに良い学科にしたいと思っていますので、引き続きよろしくお願いいたします。」

【澤坂委員(株式会社Artisan)】

「IoT+AI 科の「寝てると起こすシステム」を知って思ったことです。実は、前々から世の中の学校に対して思っていることがあります。寝ている学生に対して「顔を洗って来いよ!」とよく聞くのですが、じゃあなんで顔を洗ってはいけないの?と思ったことがあります。専門的なことを学ぶことはかなり頭を使うため当然眠くなってしまう。人間の脳みそは、寝ている時に集めた情報を整理するので、眠くなるのは当たりまえ。ただ、体として授業

中は寝てはいけないうんてはいるものの、寝るのであれば可能な限り頭に詰め込んで寝ろとしています。小中学生の頃は、飴やガムを食べるとタバコにつながったりすると聞いたこともあります。しかし、18歳過ぎている専門学生ならば、学ぶことに対して最高効率求めるために、飴を許してもいいのではないかと思います。私の職業柄、ゲーム系の会社は可能な範疇の話です。ただ、窓口対応の人ができる話でもないですし、他の職業でNGな場合もあるのは承知の上です。一つの案として、学校で取り入れるのはいかがでしょうか。複数の職業の方の意見をいただければ嬉しいです。」

【白井校長】

「コロナ後は、外部の企業さんを交えて就職プログラムを行ったのですが、しっかりと起きていて、ちゃんとしていると私は思っています。他にも、飲み物を飲んででもいいですが、ペットボトルを机上に置いてはいけないといったルールなどはあるので、学校の規律としてはNGとしています。ご承知おきください。」

【井坂副校長】

「他の先生方にも意見を聞いてみたいところですね。では、中山委員お願いします。」

【中山委員(有限会社イプシロン／東京商工会議所 中野支部)】

「今の、澤坂委員の意見に対して思ったことは、最近ニュースでハラスメントって結構出てきますよね。体調に合わせて、水や飴をダメと言うと、それもいつかはハラスメントって言われてしまうのではないかと思います。「してもいい」「してはいけない」の境目をつくってルール付けは今後必要になってくるのではないのでしょうか。学校に対しては、ものすごく戦略的で色々なことに対してアグレッシブにアクションをかけていく姿勢を、健全な戦略性を持った行動原理だなというも感心しております。そんな中で、57ページに記載のあるネガティブなことも教えてくれたことに驚きました。この状況も、学校自体が世の中に合わせて成長していく、成長痛みたいなものかなと思います。すぐに答えが出ることではないですし、トライ&エラーを繰り返して対応していく必要があることなので、お身体に気を付けて頑張ってください。」

【白井校長】

「ありがとうございます。ハラスメントに関しては、非常に難しい問題だなとシビアにとらえています。最近では保護者からも厳しい意見が出たりしています。今週金曜日に、ベップトークという褒めて伸ばす研修を教員全員が受ける予定です。私たちの時代は、叱って伸ばすは当たり前だったのですが、今はそうじゃないので「褒めて伸ばす」を全教職員が習得しないといけません。前回会議で、松本さんから情報をいただいた、登校拒否が増えている状況下で、登校拒否の生徒が入学してくる局面に来ている時に対応できるようしっかりと備えていきたいと考えています。」

【佐々委員(特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ21)】

「どうかお身体にお気をつけください。たくさんの方を考えて、それを理想だけで終わらせず、ひとつひとつこなされているので頭が下がります。

経済産業省が支持しているホワイトバイオは、工業分野です。経産省や大手の企業は、最近テクニシャンが辞めていく専任喪失に注目しています。テクニシャンになるには、4大卒よりも、専門学校で現場の技術を持ち、且つ資格を持っているような人の方が良いと現場からは思いますが、募集の厳しさを聞いて難しいのだなと思いました。

2点目に、私はゲノム編集の実装に関っていたのですが、栄養のあるトマトや成長の早いフグなどが出ており、日本はゲノム編集において世界のトップランナーといえます。それらで言ってるのは、コンセプトがしっかりあるということです。昔とは違い、良いものを作ったらコンセプトを付けてしっかり情報発信をしないといけません。それは、教育の現場でも言えることと考えます。東京の稲花小学校(東京農業大学の附属校)は、開校当時から倍率10倍、今や慶応の幼稚園を越えるくらいの人気です。面白おかしく捉えられがちな大根踊りは、校歌の歌詞をよくみると「食と農をしっかりと国を支えるんだ」というような歌詞になっています。コンセプトがしっかりしているので、学費が高くて保護者の気持ちを掴むのだなと思いました。TTCは、コンセプトを戦略的によく考えてらっしゃるため、RJPにしても、現場の面白さをよりわかってもらうやり方は、稲花小学校と重なる部分があると感じました。

3点目に、こういった場合の懸念事項として、管理職と教育現場と事務とが分離してしまうことです。上は、人数を増やせと言っているが、現場は、授業に高大連携、募集活動で忙しい。なかなか気持ちが通じ合わない学校があります。ただTTCは、白井校長をはじめ管理職が現場経験者なだけあって、うまくまとめているらっしゃるなと思いました。これからもシステマティックに運営をされること応援しております。以上です。」

【白井校長】

「どうもありがとうございます。佐々先生とも一緒に何かやりたいです、今後どうぞよろしくお願い致します。」

【島田委員(エーピージーエムデザインアトリエ／法政大学大学院デザイン工学研究科)】

「全ての事業報告の話を伺っていると、幅広くきめ細かい取り組みがされていますね。学生を入学させて卒業させるだけではなく、きちんと育ててから社会に送り出す専門学校の使命を、TTCではしっかりとやっているので凄いと思います。学習成果発表会の来場者数はどのくらいでしょうか。3月に行なわれた学習成果発表会、一応全部回ったのですが、タイムスケジュールがあまりにも詰まって全学科ゆっくり聞けなかったのが残念でした。どの学科も、その学科の学生が聞いているのがもったいないです。他学科の学生、OBOG、保護者、高校生、企業、地域の人など、もっとたくさんの人に聞いてもらう機会にはいかがでしょうか。他学科の話を聞いて刺激を受けたり、地域とのコラボ、目指しているダブルメジャーに繋がったりとプラスに

なることはあるはずです。
また、OBOG の夜テラは、私も参加しましたが縦のつながりが持てることは嬉しいので継続してほしいです。
最後に、この建物の知名度は結構あります。かなり認知されているので、うまく質の高い教育を伝えていければいいと思います。」

【白井校長】

「ありがとうございます。おっしゃる通りで、学習成果発表はコロナが 5 類に移行したため運営ももうちょっと本格化させていきたいです。作品展示は 1 ヶ月間実施していますので、OC や保護者説明の後に見せなど使い所はたくさんあります。発表を 2 日、3 日に分けるなど次回に活かしていきたいと思います。」

【松本委員(株式会社進研アド)】

「学園の中で退学率が上がった件について、他校でもよく聞く話の一つです。私も仕事柄、なぜそうなったのかをお客様とお話している中での仮説をお伝えできればと思います。まず 1 つ目、入ってくる学生の変化。昨今、通信制から専門学校にはいるケースが増えています。つまりは、その学生に対しての指導の難易度が上がっていることです。

2 つ目に、授業の変化が考えられます。コロナが 5 類に移行して、オンライン授業が対面に変わっている中で、今の学生はコロナ禍を過ごした方々になります。なので、毎日対面っていうのが、精神的に辛く感じているようです。とある群馬の大学校さんは、オンラインの割合が多い学科ほど退学率が低いとお話されておりました。つまりは、コロナが 5 類に移行したタイミングで対面に戻したけど、またオンラインに戻している学校さんもあるようです。各学科、各分野においてベストな割合もあるかと思うので、テクニカルカレッジさんでもぜひ議論されてもいいのではないかと思います。私から以上です。」

【白井校長】

「すごく面白いです。考えたらしかにそうかもしれません。
建築科・夜間課程は、講義を今年から全部オンラインに変えました。リカレントではありますが、学生からは好評です。新しい議題になりますね。ありがとうございます。」

【井坂副校長】

「仰った通りで、一昨年ぐらいからオンラインを増やした学科は退学率低いです。情報処理科も、最近は週に 1、2 回はオンラインにしています、参考にさせていただければと思います。ありがとうございます。」

【三浦委員(株式会社リクルート)】

「今の話の付け足しのようになってしまいますが、来年の 4 月、通信制大学の募集定員が 1 万人増えます。既に認可はおりています。一番多い学校さんで 5 千人～2 千人規模で定員を増やす予定です。ここ数年、専門学校へ入学者がマイナス 2 万人です。オンラインでの授業は需要があるため、取り入れる必要はあるかと思います。」

【白井校長】

「貴重な情報ありがとうございます。学内で共有します。」

【吉田委員(株式会社ビーアライブ)】

「はじめから質問ですが、データサイエンス+AI 科が海外のコンテストに参加したのは、学生が自主的に行ったものですか？」

【白井校長】

「虎ノ門ヒルズに CIC 東京という日本一大きいインキュベーションセンターがあります。そこには Terakoya. AI さんというベンチャー企業のオフィスがあります。Terakoya. AI さんうちの科長が仲良く、スタートアップの応援に行ったら、同じ志の学生が集まってやろうとなったようです。Terakoya. AI さんには、テクニカルカレッジに来て、アイデアビジネスコンテストを週に一回実施したりとかなりご協力いただいております。そういった経緯です。」

【吉田委員(株式会社ビーアライブ)】

「ありがとうございます。なぜお伺いしたのかというと、たまたま学生がやったことであれば次に繋げるためにどうするかを考えて行く必要があると思ったのですが、学内のコンテストもされているということで大丈夫かなと思います。次に繋げて行く学校は、成績を良くしていこうと上昇志向のようになっていくと思います。うまく後輩に繋げていくような仕組みになるといいなと思いました。」

【白井校長】

「先日、就職プログラムがありました。教員がいくら大切なこと言っても響かないので、実際に内定が取れた 2 年生に公開インタビューを行います。データサイエンス+AI 科からは、坂本くんが登壇。彼からは、「学校の授業ももちろんだけど、外のインパクトは強いからインターンシップに行くなり、外に出ようね」と話をしてくれたので、うまく後輩に繋がるといいなと期待していたところでした。」

【吉田委員(株式会社ビーアライブ)】

「ぜひ期待しております。2 点目ですが、25 卒の就活の活動量が減っているとたくさんの企業さんからお聞きし

ます。7 社、8 社受ける時代ではなくなっているようです。私も理由はわからないのですが、今年は本当によく耳にします。学生が行きたいと思う企業に出会えているのか、受け入れる企業からしても活躍してくれる学生に出会えているのかが不安です。リアルジョブプロジェクトの中で、外の方との交流を持ち、働く意識を強くイメージできるような取り組みは大事にしていきたいです。就職した後のミスマッチが起きないためにもよろしくお願いいたします。」

【武田(就職担当)】

「今年の傾向としては活動が鈍いです。私の体感ですが、ここ数年、就職が好調だったので安心してるとは思えないかなと思うのが 1 点。2 点目に、卒業生に話を聞いていると、企業内でリクレーターを立てて学生に対して早期にアプローチをかけています。あまり活動しなくても決まっちゃうので安心感を持っているのだと思います。」

【井坂副校長】

「情報処理科は、去年よりも内定率低いです。学生の意識の問題で、この仕事やりたいと思う感覚が鈍く、行動に移せていない現状です。教員が背中を押して、とりあえず説明会に行かせる、とりあえず受けてみる、受かってから考えればいいと学生に言っています。仰るとおり、受けている数も少ないし、内定率も去年に比べると低いですね。」

【岸委員(東中野五丁目小滝町会)】

「説明をお聞きして、今までの課題に対してきめ細かく対応されておりますし、私はうまくいくのではないかなと思ってしまいます。

私は教育現場の意見は言えませんが、私たちから何かできることはないかをよく考えています。

今年の 3 月の会議にも参加をして、バイオテクノロジーとの接点があるのではないかと思います、学校へご相談させていただきました。今、学生さんが作っている畑とコンポストの分析をしていただいております。明後日には、町の小学生に対して講座を開いてもらう予定です。おかげさまで反響が良く楽しみにしております。こうやって関わっていただけて本当にありがたく思っております。今後も何かの接点があれば是非一緒にお願いたします。」

【白井校長】

「本年度は貴重な機会をいただきまして誠にありがとうございます。町内会でコンポストを作ろうという発想が面白いですね。畑で育てたトマトも食べました、すごく美味しかったです。地域との連携はやりたいことの 1 つでもありますので、今後どうぞよろしくお願いいたします。」

【渡邊委員長(NEXT株式会社)】

「気になることは、来年度入学者数 380 の目標をもっているとのことでしたが、留学生の増加は今後も見込める想定でしょうか。」

【白井校長】

「留学生だけではなく、国内生も来てほしいです。高校生だけでなく、リカレント層も含めてです。先程話題に上がった、通信制の高校からの入学者も増えています。優秀な子はいますのでネガティブにはとらえていません。嫌な言い方をすると、募集が伸びている学科はポートフォリオが多様化している学科が安定的に集まっています。高校生だけに特化している学科は伸び悩んでいる傾向にあります。」

【渡邊委員長(NEXT株式会社)】

「そうした場合に、質の違う学生に対して、今までと同じことをしていると退学に繋がってしまう。多様性に対応できる組織作りは大変ですね。顧客満足度を持たせることは難しいなと思いました。」

【白井校長】

「ありがとうございます。逆に多様な学生がいることはポジティブに考えています。

例えば今、情報処理科は 11 カ国の国籍の学生がいます。学園祭でフードコートができそうで、それはそれで楽しいですね。日本人だけの学校ってイマドキどうなのって思います。以前、韓国籍の学生がソウルに帰る際、クラスメイトみんなで行ったエピソードがあります。そうやって画一的じゃなくて良いのかなとポジティブに思います。」

【井坂副校長】

「校長から話あったように情報処理科は 11 カ国の学生がいます。日本人が引いてしまうかなと懸念もあったのですが、いざ蓋を開けてみると馴染んで授業受けています。我々が心配するほどのことでもなく、良い雰囲気です。留学生の問題は日本語力です。10 年前は、コンピューター系は N1 を持っていないとダメと言われていたのですが、今はいません。その子たちは急に授業を受けるのは苦労するので、今年から学期の始まりに教材を全て配布し、国の言葉に翻訳してから授業に挑むように指導しています。そうするとそんなに苦労せず進められています。

もう 1 点は、26 日に企画しているベップトーク講習会の目的は、多様化した学生にどう対応できるかも含まれています。人の性格は、グルーピングができるようです。赤色、緑色、黄色のように。例えば、赤色の学生は〇〇の性格なので褒めて伸ばす対応が向いている。逆に緑色は、葉っぱかけるとやる気になるのタイプ。などを皆で学び、どの学生にも対応できるスキルを身につけます。」

	7. 閉会の辞 【渡邊委員長(NEXT株式会社)】 「ありがとうございました。現在までの説明をもって評価をしたいと思います。教育的視点からの改善アプローチでありますし、これまでの取り組みを拝見し、テクニカルカレッジらしい改善への取り組みだと思いますが、委員の皆さんはいかがでしょう。」 【全委員】 全員一致で賛同 【渡邊委員長(NEXT株式会社)】 「ありがとうございます。昨年度の取り組み及び、今年度の取り組みを適切な活動であることを評価したいと思います。これにて 会議は終了しますが、今後の活動についての改善努力についても計画したものがどのように進捗してきているのか、またその取り組みを含めこれからも公開をお願いしたいと思います。スムーズな議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。これにて閉会します。」 【井坂副校長】 「渡邊議長、委員の皆様、長い時間ありがとうございました。本会議を持ちまして本日の学校関係者評価委員会の会議は終了となります。次回の学校関係者評価委員会は2024年11月29日金曜日、夕刻となります。ぜひご出席いただきまして、ご意見をいただければと思います。本日は、お暑い中、お忙しい中、ご出席賜りまして、熱く御礼申し上げます。ありがとうございました。」 【白井校長】 「本日は、誠にありがとうございました。今回は刺さることも多く、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。また、お気軽に遊びに来てください。ぜひ意見交換をしましょう。今後ともよろしくお願いいたします。」 以上
--	---

議事録署名人

_____ 印

_____ 印